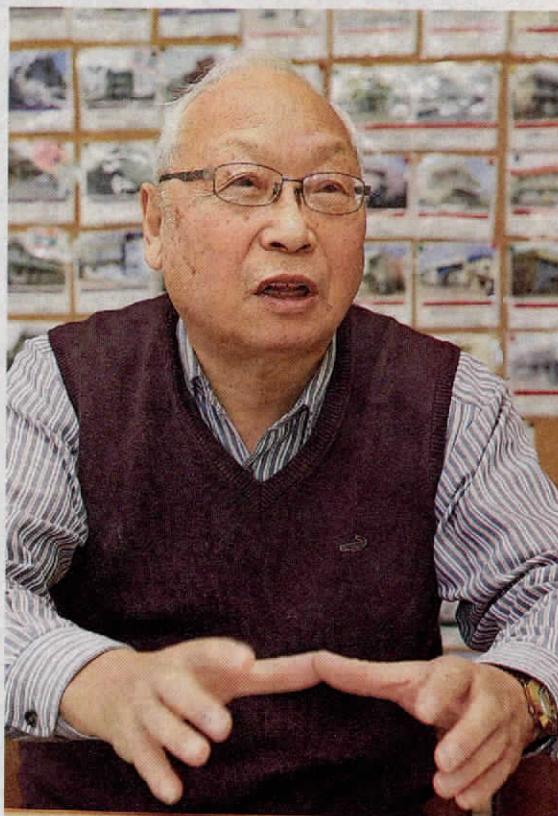


人生の再出発 部屋貸し応援



旭川の不動産業・早坂さん

【旭川】旭川市の不動産業「早坂企画」社長の早坂天さん(76)は四半世紀にわたり、ホームレスなどの「住宅弱者」に自社アパートの部屋を安価で貸し出すことで住まい確保を支援している。築数十年の物件を購入して自社で改修。家賃を公的扶助の範囲に抑え、敷金・礼金や保証人は不要で提供している。「家さえあれば人生は再出発できる」と早坂さん。生活に困窮する人に寄り添い、見守り続ける。

(小林史明)

ひと語り もの語り

早坂さんは、1995年にそれまで勤めていたスマークを辞め、退職金を元手

を購入し、自社の従業員で修繕することで、コストを抑えているという。現在、約1700世帯が入居す

る。「手直しすればまだまだ住めるな」。厳冬の1月、早坂さんは社員と一緒に買取ったアパートを訪れ、床などの腐食具合をチェックしていた。木造2階建ての築30年。水回りなどの改修時期を迎えたが、経費面から放置され、近年は入居

がほとんどない状態だった

という。同社は現在、築30~50年のアパート約190棟

がほとんどない状態だった

とい

う。所持金はゼロ。男性は性がホームレスになり、助けを求めていた。会社が倒産し自殺しようと思いつらじめて北海道にやってきたとい

た。女性は覚醒剤におぼれ、当時は福島県の刑務所に雪が積もあることがある掘つ立て小屋だった。それでも「家はくつろぐことのできる大事な場所だった」。そのことを思い出した早坂さんは男性に部屋を貸すことにした。

早坂企画には、家に帰れない人が助けを求めてくるようになつた。「刑期を終

えて刑務所を出たが、地元には戻れない」「熟年離婚で住む家を失つた」「暴力団から足を洗いたい」。早坂さんは、住まいを得て人生の再出発を目指す入居者に接するうち、困窮者に部屋を貸すこの仕事を「天職」と思うようになった。

困窮者に寄り添い四半世紀

天さん。「安心して住める家があれば立ち直れる」と話す

(宮永春希撮影)

早坂さんは十勝管内足寄町の開拓農家で生まれ育つた。天井に穴が開き、布団に雪が積もることもある掘つ立て小屋だった。それでも「家はくつろぐことのできる大事な場所だった」。

そのことを思い出した早坂さんは男性に部屋を貸すことにした。

早坂企画には、家に帰れない人が助けを求めてくるようになつた。「刑期を終

えて刑務所を出たが、地元には戻れない」「熟年離婚で住む家を失つた」「暴力団から足を洗いたい」。早坂さんは、住まいを得て人生の再出発を目指す入居者に接するうち、困窮者に部屋を貸すこの仕事を「天職」と思うようになった。

この冬、早坂さんのものと

に、4年前に部屋を貸していた50代女性から手紙が届いた。女性は覚醒剤におぼれ、当時は福島県の刑務所

を出所したばかり。現在は札幌で服役中で今夏に出所

の見通しという。手紙には「今度こそ失敗しないで生きていきたい」と書かれていた。早坂さんは、女性が頼つてきたら再び受け入れつもりだ。

入居者の中には、家賃を支払わないで姿を消す人もいる。同社の従業員は約40人。「利益を出すのは厳しくやっている」と早坂さ

ん。入居者のペースに合わせて「伴走」する。